

# <調査票の記入要領・記入例>

調査対象期間

●この調査の対象期間は、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の1年間です。この期間中の産業廃棄物等の発生と処理・処分の状況を質問①～⑪までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物

●この調査では、**県内で施工した元請工事から発生した産業廃棄物等**だけが記入の対象となります。  
●産業廃棄物等がどのように分類されているかを示すために、裏面に「**廃棄物等分類表**」を掲げてありますので参考にしてください。

発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「**焼却**」、「**脱水**」等の処理を行う前の「**名称**」と「**数量**」をお答えください。

○**自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。（記入例Cを参考にしてください）  
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物等の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

○**自社で脱水**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。（記入例Eを参考にしてください）  
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。  
＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（１００％－脱水後の含水率％）÷（１００％－脱水前の含水率％）

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。  
○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。  
○含油廃水を油水分離した場合。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（行を分けて記入）発生量とします。

## 調査票【その2】の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票【その2】を記入してください。

本紙の裏面の「廃棄物等分類表」を参照してください。

該当する単位に、必ず○をつけてください。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0（ゼロ）」を記入し、単位はkgに○を付けてください。

廃棄物の処理・処分を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

⑩処理後の処分方法  
1 再生利用・リサイクルしている  
2 埋立処分している

区分	行番	①廃棄物等の名称	②分類番号	③年間発生量								単位	④方法記号								⑤中間処理後量	単位	⑥処理・処分の方法	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称等	⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑨方法記号			⑩処理後の処分方法	⑪資源化用途	
				百	十	万	千	百	十	一			1次処理	2次処理	3次処理	百	十	万	千	百	十	一				1次処理	2次処理	3次処理			
記入例：A	記	1鉄筋くず	1 2 1 0							2	0	kg												W 1	㈱△△産業	寒河江 (市)				1・2	10
記入例：B	記	2木くず	0 8 0 1							3	0	kg												U 1	〇〇商店	山形 (市)	G			① 2	30
記入例：C		3廃プラスチック	0 6 1 0							1	0	kg	A									1		S 1	㈱×〇	宮城県 仙台 (市)				1・2	
記入例：D		4廃プラスチック	0 6 1 0								5	kg												U 1	㈱××	新庄 (市)	A			1・②	
記入例：E	入	5ベントナイト汚泥	0 2 2 2							6	0 0	kg	B								1	0 0		S 1	〇〇㈱	福島県 いわき (市)				1・2	
記入例：F		6コンクリートのがれき	1 5 1 0							1	0	kg												S 1	㈱〇〇	尾花沢 (市)				1・2	
		7コンクリートのがれき	1 5 1 0							1	1 0	kg												U 1	△△㈱	上山 (市)	G			① 2	50
	欄	8																													

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分した先の名称を記入してください。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入してください。

記入例：A

・工事現場から鉄筋くずが年間20t発生したが、すべて、寒河江市の㈱△△産業に売却した。  
・相手先では、鉄鋼原料として再生利用している。

記入例：B

・工事現場から建設木くずが年間に2t車で30台分（すべて満杯）発生した。  
・1台当たりの重量が1t程度であるため、重量に換算すると、30tである。  
・これは、山形市にある〇〇商店に料金を払って処理を委託した。  
・相手先では、破碎チップ化し、燃料として再生利用している。

記入例：C

・工事現場から廃プラスチックが年間10t発生した。  
・すべて自社の焼却炉で焼却した。その灰の量は年間で1t程度であり、宮城県仙台市にある㈱×〇の処分場で埋立処分した。

記入例：D

・工事現場から廃プラスチックが年間5m³発生した。  
・これは、新庄市にある㈱××に中間処理を委託した。  
・委託先では焼却処理し埋立処分している。

記入例：E

・工事現場からベントナイト汚泥が発生したが、すべて工事現場内で脱水した。  
・脱水後の汚泥量は、100t（含水率70％）であった。  
・脱水前の量は、計量していないので正確でないが、脱水前の含水率が95％であるため計算すると600tとなる。  
（計算式 100t × (100－70) ÷ (100－95) = 600t）  
・処理後の汚泥は、福島県いわき市に管理型処分場を保有する〇〇㈱で埋立処分した。

記入例：F

・工事現場からコンクリートのがれきが10tダンプで12台分発生した。重量に換算すると120t程度である。  
・このうち、10tは、尾花沢市に処分場を保有する㈱〇〇で埋立処分した。  
・残りの110tは、上山市に破碎プラントを保有する△△㈱に中間処理を委託した。  
△△㈱では破碎後骨材（土木・建設資材）として再生利用している。



廃棄物等分類表(その1)

※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は、本用紙右下の特別管理産業廃棄物の分類表をご参照ください。

1. 産業廃棄物(特別管理産業廃棄物を除く)

種 類			分類番号	具 体 例
汚泥（泥状のもの）	有機性汚泥		0211	製紙汚泥、活性汚泥（余剰汚泥）、ビルピット汚泥（し尿を含むものは除く）、染色廃水処理汚泥、クリーニング廃水処理汚泥（水洗を主とする場合）、イースト菌培養残さ、その他泥状を呈する有機性廃棄物
		下水汚泥	0212	下水汚泥
	無機性汚泥		0221	めっき汚泥、金属表面処理汚泥、研磨汚泥、砂利洗浄汚泥、セメント工場廃水処理汚泥、窯業廃水処理汚泥、水酸化アルミ汚泥、イオン交換樹脂再生廃液処理汚泥、廃サンドブラスト（塗料かすを含むものに限る）、脱硫石こう、赤泥、ガラス研磨汚泥、金属研磨汚泥、道路側溝汚泥、洗車汚泥、廃白土、油水分離後の汚泥、廃顔料、その他泥状を呈する無機性廃棄物
		建設汚泥	0222	建設高含水率汚泥、ベントナイト汚泥
		上水汚泥	0223	上水汚泥
廃油	一般廃油	鉱物油	0311	エンジンオイル、機械油、グリス、切削油、絶縁油、圧延油、作動油、重油、原油、潤滑油、燃料
		動植物性油脂	0312	魚油、鯨油、ヘット、ラード、天ぷら油、サラダ油、アマニ油、桐油、ゴマ油、なたね油、やし油、大豆油、とうもろこし油
	廃溶剤	0320	アルコール類、ケトン、洗浄油	
	固形油	0330	アスファルト、タールピッチ類、パラフィンろう、固形石けん、クレヨン、パステル	
	油でい	0340	タンクスラッジ、オイルスラッジ、オイルトラップ汚泥、油性スカム	
	油付着物等	0350	油のしみたウエス、油紙くず、廃吸油材、廃シール材、クレオソート廃油、アンダーコートかす、廃塗料（液状）、インクかす、廃ワニス	
廃酸	無機性の酸性廃液		0401	塩酸、硫酸、フッ酸、クロム酸、リン酸、フッ化水素酸、過塩素酸、スルファミン酸、ケイフッ酸、酸性洗浄液、エッチング廃液、染色酸性廃液（漂白浸せき工程、染色工程）、クロメート廃液
	写真定着廃液		0402	写真定着廃液
	有機性の酸性廃液		0403	ギ酸、酢酸、シュウ酸、酒石酸、クエン酸、アルコール発酵廃液、アミノ酸発酵廃液
廃アルカリ	アルカリ性廃液		0501	アルカリ性洗浄廃液、液洗びん用廃アルカリ、石灰廃液、アルカリ性メッキ廃液、ドロマイト廃液、染色排水（精錬工程、シルケット加工）、黒液（チップ蒸解廃液）、脱脂廃液（金属表面処理）、廃クラーント液（L L C）
	写真現像廃液		0502	写真現像廃液
廃プラスチック類	廃プラスチック		0610	【熱可塑性】ポリエチレン樹脂、ポリスチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂 【熱硬化性】フェノール樹脂（バークライト）、ユリア樹脂、エポキシ樹脂、メラニン樹脂、ウレタン樹脂 【合成繊維】ナイロン繊維、ポリエステル繊維、アクリル繊維、混紡繊維、化繊ロープ、化学繊維 【その他】プラスチック製品くず、プラスチック容器、発泡スチロール、ビニールシート、フィルム、プラスチックタイル、セルロイド、繊維強化プラスチック（FRP）、塗料かす（固形）、接着剤かす、合成ゴムくず、塩ビ管
		発泡樹脂	0611	発泡スチロール（発泡ポリスチレン）、発泡ポリエチレン、発泡ウレタン等
	廃タイヤ		0625	大型車用廃タイヤ
			0626	普通車・軽自動車用廃タイヤ
紙	く	ず	0700	パルプ・紙・紙加工品製造業、印刷業、製本業、出版業等から排出される紙くず 《注意！》一般事務から排出される紙くずは一般廃棄物なので、本調査の対象外です。
木	く	ず	0801	木くず、おがくず、かんなくず、パーク類、竹、ベニヤ、ベニヤボード類
			0802	パレット、パレットへの貨物の積付けのために使用したこん包用の木材
繊維	く	ず	0900	羊毛、綿、絹、麻等の天然繊維、レーヨン、アセテート混紡繊維（天然繊維が主体のもの） 《注意！》合成繊維は「廃プラスチック類」に分類されます。
動植物性残さ	動物性残さ		1010	魚・獣の骨、魚・獣の皮・内臓などあら、皮革くず、ボイルかす、缶詰め・瓶詰め不良品、乳製品精製残さ、卵から、貝殻、羽毛 《注意！》「食料品製造業」、「医薬品製造業」、「香料製造業」から排出された物以外は、一般廃棄物なので、本調査の対象外です。
		植物性残さ	1020	ソースかす、醤油かす、こうじかす、酒かす、ビールかす等の発酵・醸造かす、糊かす、でんぷんかす、豆腐かす、あんかす、茶かす、米、麦粉、大豆かす、果物の皮、野菜くず、薬草かす、油かす、パンくず、原料くず 《注意！》「食料品製造業」、「医薬品製造業」、「香料製造業」から排出された物以外は、一般廃棄物なので、本調査の対象外です。
動物系固形不要物			4000	と畜場から生ずる獣畜に係る固形状の不要物、食鳥処理場から生ずる食鳥に係る固形状の不要物
ゴム	く	ず	1100	ゴムくず、エボナイトくず、ゴム手袋、ゴムチューブ、ゴム板くず 《注意！》合成ゴムは「廃プラスチック類」に分類されます。

廃棄物等分類表(その2)

種 類			分類番号	具 体 例
金 属 く ず	鉄 く ず		1210	鉄くず、スクラップ（主体が鉄製の場合）、ブリキくず、トタンくず、空き缶（鉄製のもの）
	非 鉄 く ず		1220	銅線、銅くず、アルミくず、アルミ缶
	混 合 金 属 く ず		1230	鉄くず及び非鉄くずの混合物
ガラスくず、コン クリートくず及び 陶磁器くず	ガ ラ ス く ず		1310	白熱電球、窓ガラス、びん類、グラスウール、ガラス食器、光学レンズ、クリスタルガラス、 ガラス器具、薬品ビン
	陶 磁 器 く ず		1320	セラミックくず、レンガ、かわら、陶器
	石 膏 ボ ー ド		1330	石膏ボードくず
	コンクリート製品くず		1340	コンクリート製品くず <<注意！>>工作物の新築、改築又は除去に伴うものは「がれき類」に分類されます。
鉱 さ い	廃 砂		1410	鑄物砂、サンドブラスト廃砂
	炉 さ い		1420	高炉水さい、高炉の残さ、平炉の残さ、転炉の残さ、電気炉の残さい、キューボラのノロ、ド ロス、カラミ
	鉱 さ い 類		1430	不良鉱石、ボタ、粉炭かす、鉱じん、破石くず
が れ き 類 [工作物の新築、 改築又は除去に 伴 う も の ]	コンクリート片		1510	コンクリート破片、コンクリートブロック破片
	廃 アスファルト		1520	アスファルトコンクリートの破片
	レンガ破片など		1530	鉄道用線路の砂利、骨材、石材、レンガ、スレート、タイル、断熱材
動 物 の ふ ん 尿			1600	家畜のふん尿
動 物 の 死 体			1700	家畜の死体
ば い じ ん			1800	電気集じん器捕集ダスト、集じん器捕集ダスト、煙道・煙突に付着堆積したす
燃え殻	燃 え 殻		0110	燃料などの焼却灰（石炭殻、コークス灰、重油灰、木灰、炉掃出物、クリンカなど） 《注意！》可燃ごみなどを自己で焼却処理した場合、「燃え殻」ではなく、焼却する前の「紙くず」、「木くず」等を 発生時の種類として記入してください。
	廃 活 性 炭 ・ 廃 カ ー ボ ン		0120	廃活性炭、廃カーボン
混合 廃棄物	混 合 物	安 定 型 混 合 廃 棄 物	2100	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、が れき類のみを含む混合物で分別ができない廃棄物
		管 理 型 混 合 廃 棄 物	2200	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、が れき類以外の廃棄物を含む混合物で分別ができない廃棄物
	廃 製 品 ・ 複 合 材	廃自動車	3000	廃自動車、廃二輪車
		廃電気機械器具	3100	プリント配線板、テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、電話機、自動 販売機、蛍光灯など
		水銀使用製品産業廃棄物	6417	水銀使用蛍光管、水銀使用医薬品・農薬、水銀回収義務付け品、その他水銀使用製品産業廃棄物
		廃電池類	3500	鉛蓄電池（バッテリー）、乾電池
		複合材	3600	2つ以上の異なる素材が一体的に組み合わせられている製品の廃棄物
水 銀 含 有 ば い じ ん 等			6500	水銀を15mg/kg(L)を超えて含有する汚泥、廃酸、廃アルカリ、鉱さい、ばいじん、燃え殻等
石 綿 含 有 産 業 廃 棄 物			2400	非飛散性の石綿含有産業廃棄物
シュレ ッ ダ ー ダ ス ト			2300	廃自動車破砕物、廃電気機械器具破砕物

2. 特別管理産業廃棄物

※爆発性、毒性、感染性、腐食性などの有害な性状を有している廃棄物は特別管理産業廃棄物として分類されます。

特別管理産業廃棄物	引火性廃油		7000	揮発油類（燃えやすい廃油、ガソリン、灯油、軽油、シンナー、トルエン、キシレン、エーテルなど）
	腐食性廃酸		7100	水素イオン濃度指数〔pH〕2.0以下の廃液
	腐食性廃アルカリ		7200	水素イオン濃度指数〔pH〕12.5以上の廃アルカリ
	感染性廃棄物		7300	血液、血清、血漿、体液（精液を含む）、血液製剤、血液等が付着した鋭利なもの（注射針、メス、試験管、シャーシ、ガラスくず等）、血液等が付着した実験・手術用手袋等、病原微生物に関連した試験・検査等に用いられたもの（試験管、シャーレ等）、汚染物が付着した廃プラスチック類など
	特定有害産業廃棄物	特定有害廃石綿等	7421	吹き付け石綿（アスベスト）、石綿含有保温材、これらの除去工事から排出されるプラスチックシート、防じんマスク等の用具・器具で石綿が付着しているおそれのあるもの
		指定下水汚泥	7422	指定有害物質を含む下水汚泥
		特定有害鉱さい	7423	特定有害物質を含む鉱さい
		特定有害燃えがら	7424	特定有害物質を含む焼却灰
		特定有害廃油	7425	特定有害物質を含む廃油、トリクロロエチレン・テトラクロロエチレンを含む廃油など
		特定有害汚泥	7440	特定有害物質を含む汚泥（下水汚泥を除く）
		有機性のもの	7441	特定有害物質を含む有機性汚泥（下水汚泥を除く）
		無機性のもの	7442	特定有害物質を含む無機性汚泥
		特定有害廃酸	7427	特定有害物質を含む酸性廃液
		特定有害廃アルカリ	7428	特定有害物質を含むアルカリ性廃液
		特定有害ばいじん	7429	特定有害物質を含むばいじん
		廃水銀等	5108	特定施設において生じた廃水銀等
		廃PCB	7419	廃PCB等、PCB汚染物、PCB処理物